

『ゴルフとは、自らを自らで励ますこと。』



バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

全米オープン

全米オープンは、今年第119回を迎えた。日本の明治時代の中頃に始まった伝統のある大会で、全英オープンとともに、プロゴルフファーストとして、どうしても手にしたいタイトルの一つである。さらに加えて、今年の会場は、ペブルビーチ・ゴルフリンクスで、世界でもっとも有名で人気のある海沿いの難関なコースで開催された。開催前からいくつかの話題がメディアを賑わせており、その一つがブルックス・ケブカ(米国)選手の全米プロに続くメジャー連続優勝と、さらには、全米オープンの3連覇がかかっていたこと。もし、彼が3連覇を達成すると、なんと114年ぶりということになり、文字通り、100年に1人の偉業を成し遂げた選手となる。

また、今年マスターズを制したタイガー・ウッズも無論、話題の提供者の一人であった。2000年にこのペブルビーチ・ゴルフリンクスを制したウッズ。マスターズに続いて勝利を手にしたら、全米どころか、世界中が称賛するストリーとなるはずであった。昨年、やや不調であった松山選手も5月の中盤から復調の兆しを見せ、コースが難関なだけに他の選手の出来によっては、優勝を狙えるはずであった。

ご存知の通り、全米オープンは極めて厳しいセットで行われた。太平洋から吹き抜ける台風のような強い風と、ひとたび球がラフに入り込むと、ボールのその場所さえ確認できなくなるほど強くて、粘っこい芝。小さなグリーンを囲むバンカーとくぼ地、もちろん高速グリーンも一流選手を悩ませるようになる。

今回、優勝のトロフィーを手にしたのは、ゲリー・ウッドランド選手という日本ではまだ馴染みのない選手であった。優れた運動神経を持つ彼は、特にゴルフとバスケットボールに才能を発揮し、ウオッシュバーン大学にバスケの奨学生として入学した。その後ゴルフに絞って2年次にカンザス大に移り、そして2007年にプロに転向した。

日本で言うと甲子園を賑わせた高校時代のジャンボ尾崎がピッチャーからゴルフファーストに転身したのに当たるだろうか。

スポーツ万能なゲリー・ウッドランドは、遅咲きの37歳で天下のペブルビーチを克服した。2位には、惜しくも3連覇を逃したケブカが続いた。

無数のギャラリイは、寒さを感じるほどの風の中で、肩を叩きあい、抱き合い、称えあう英雄たちと共に、厳しい旅を終えた。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。